

滿鐵密檔

滿鐵機構（第一卷）15

遼寧省檔案館編
廣西師範大學出版社

目 录

调查研究(报告、论文)

1	关于南满发生稀有鼻疽病例问题 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	1
	奥田金松等五人 [一九三二年]	
2	关于鼻疽菌的变异 I 形态、培养及毒性 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	11
	丰岛武夫等四人 [一九三二年]	
3	论猪霍乱菌 Smooth-Rough 变异和单体微生物噬菌体的关系 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	30
	板桥敬一 [一九三二年]	
4	牛肺疫研究 III — 内蒙古及南满洲发生的牛肺疫统计观察 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	46
	山极三郎、板桥敬一、伊藤定隆 [一九三二年]	
5	牛肺疫研究 IV — 谈牛肺疫肺炎病灶所占居的部位 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	60
	山极三郎、安保寿 [一九三二年]	
6	牛肺疫研究 V — 关于牛肺疫肺炎病灶的统计观察 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	70
	山极三郎、安保寿 [一九三二年]	
7	牛肺疫研究 VI — 牛肺疫的各种血清诊断法的比较研究 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选)	79
	伊藤定雄、山极三郎、板桥敬一 [一九三二年]	

8	牛肺疫研究 VII — 牛肺疫诊断法之我见补遗 (发生牛肺疫的乳牛及蒙古肥育牛群的观察) (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 山极三郎、板桥敬一、 伊藤定隆 [一九三二年]	100
9	牛肺疫研究 VIII — 对牛肺疫发生群体的长期观察 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 板桥敬一等四人 [一九三二年]	120
10	牛疫免疫牛接种强毒后病毒在体内存留期限 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 井上辰藏、清水勤 [一九三二年]	135
11	狂犬病的实验研究 II 固定毒在土拨鼠皮内的接种试验 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 板桥敬一 [一九三二年]	141
12	狂犬病的实验研究 III 固定毒在土拨鼠皮内的接种特别是脊髓中病毒的反应 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 板桥敬一 [一九三二年]	154
13	关于寄生 <i>Schistosomum Turkestanicum</i> Skrijabin 的病变图 (奉天兽疫研究所第二次 研究报告选) 山极三郎 [一九三二年]	160
14	蒙古产牛蝇 <i>HYPODERMA</i> SP. 的食道黏膜下寄生时代的蛆毒素的毒物学研究 (奉天兽疫研究所第二次研究报告选) 寺田文次郎 小野定雄 [一九三二年]	163
15	牛蝇 <i>HYPODERMA</i> SP. 的食道黏膜下寄生时代的蛆毒素的 <i>HYPODERMATO-TOXIN</i> 研究 I — 蛆毒素对血液凝固的作用 小野定雄 [一九三二年]	171

16 牛蝇 HYPODERMA SP. 的食道黏膜下寄生时代的蛆毒素的 HYPODERMATO-TOXIN 研究 II

从出血及皮肤溶解作用看牛蝇毒素的生物学意义

小野定雄 [一九三二年]

17 关于东部内蒙古奈曼旗一带流行口蹄疫问题 兽疫研究所井上辰藏等三人

一九三二年三月二十日 198

18 *报送复县庄河两县兽疫调查复命书 兽疫研究所↓地方部农务课长 一九三四年七月十日

附件：复命书 兽疫研究所技术员武末正义 一九三四年五月 220

19 *报送奉天省新民县老边村附近发生猪病调查复命书 兽疫研究所↓地方部农务课长

一九三四年八月二十二日 264

附件：复命书 兽疫研究所技术员渡部成三等 一九三四年五月八日 265

20 *海城附近牛疫发生流行状况调查复命书 兽疫研究所佣员氏家八良

一九三四年八月二十五日 288

21 *黑龙江省北黑线方面炭疽流行情况调查复命书 兽疫研究所技师奥田金松

一九三四年九月十日 315

22 *安东抚顺的三榨乳场畜牛结核病检查结果报告 兽疫研究所奥田金松

一九三四年十月二十九日 391

23 报送(辽阳、鞍山、营口、大石桥、熊岳城、瓦房店)畜牛定期结核病检查复命书

兽疫研究所↓农务课长 一九三四年十一月十七日日 401

附件：复命书 兽疫研究所技术员丰岛武夫 一九三四年十一月十日	402
24 报送欧里产业调查所托管牛的牛肺疫免疫试验报告 兽疫研究所所长↓地方部农务课长等 一九三五年八月二十八日	427
附件：欧里产业调查所托管牛的牛肺疫免疫试验报告 兽疫研究所技术员伊藤定隆 一九三五年八月二十四日	428
25 朝阳绵羊改良场发生羊痘情况调查复命书 兽疫研究所技术员武末正义 一九三五年十一月四日	436
26 *拉滨线小城、京图线蛟河、奉吉线口前的自警村马鼻疽补体结合反应检查复命书 兽疫研究所林六郎、中川三男 一九三六年十二月十日	441
27 *富拉尔基酸乳制造所发生鼻疽情况调查复命书 兽疫研究所持田勇 一九三六年十二月二十四日	451
28 *奉天省立卧虎屯种畜场饲养羊接种羊痘弱毒情况调查复命书 兽疫研究所松尾英磨 一九三七年二月二十一日	460
29 *奉天省立卧虎屯种畜场饲养羊第二次接种羊痘弱毒情况调查复命书 兽疫研究所松尾英磨 一九三七年四月二十三日	467
30 *开原发生疑似羊痘病例调查复命书 兽疫研究所松尾英磨 一九三七年九月二十日	474
31 *押木营子分场发生牛流产情况调查复命书 兽疫研究所职员渡部成三 一九三七年十一月十二日	478

目 録

調査研究報告、論文(三)

1	南満ニ於ケル稀有ナル鼻疽爆發例ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	1
	奥田金松等五人 「昭和七年」	
2	鼻疽菌ノ變異ニ就テ. I. 形態、培養及毒力 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	11
	豊島武夫等四人 「昭和七年」	
3	豚これら菌ノ Smooth-Rough 變異トえれめんたる。ばくteriおふぁーちゅトノ關係ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	30
	板橋敬一 「昭和七年」	
4	牛肺疫ノ研究. III. — 内蒙古及南滿洲ニ於ケル牛肺疫發生ノ統計的觀察 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	46
	山極三郎、板橋敬一、伊藤定隆 「昭和七年」	
5	牛肺疫ノ研究. IV. — 牛肺疫肺炎病竈ノ占居部位ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	60
	山極三郎、安保寿 「昭和七年」	
6	牛肺疫ノ研究. V. — 牛肺疫肺炎病竈ニ關スル統計的觀察 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹) 山極三郎、安保寿 「昭和七年」	70

7	牛肺疫ノ研究. VI. — 牛肺疫ニ於ケル各種血清診斷法ノ比較研究 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	79
	伊藤定雄、山極三郎、板橋敬一 「昭和七年」	
8	牛肺疫ノ研究. VII. — 牛肺疫診斷法ニ關スル知見補遺 牛肺疫發生乳牛群及肥牘蒙古牛群ニ就テノ觀察 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	
	山極三郎、板橋敬一、伊藤定隆 「昭和七年」	
9	牛肺疫ノ研究. VIII. — 牛肺疫發生群ニ就テノ長期觀察 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	100
	板橋敬一等四人 「昭和七年」	
10	牛疫免疫牛ニ強毒接種後病毒ノ體內保有期間ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	120
	井上辰蔵、清水勤 「昭和七年」	
11	狂犬病ノ實驗的研究. II. — 固定毒ノもつとノ蹠皮内接種ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	135
	板橋敬一 「昭和七年」	
12	狂犬病ノ試験的研究. III. — 固定毒ノもつとノ蹠皮内接種特ニ脊髓ニ於ケル 病毒ノ態度ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粋)	141
	板橋敬一 「昭和七年」	
	板橋敬一 「昭和七年」	154

13	Schistosomum Turkestanicum Skrjabin 寄生ニ因スル一二ノ病變像ニ就テ (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	160
	山極三郎 [昭和七年]	
14	蒙古産牛蠅 HYPODERMA SP.ノ食道粘膜下寄生時代ノ蛆毒素ノ毒物學的研究 (奉天獸疫研究所第二次研究報告抜粹)	163
	寺田文次郎、小野定雄 [昭和七年]	
15	牛蠅 HYPODERMA SP.ノ食道粘膜下寄生時代ニ於ケル蛆毒素ノ“HYPODERMATO-TOXIN”ノ研究. I. — 蛆毒素ノ血液凝固ニ及ボス作用	171
	小野定雄 [昭和七年]	
16	牛蠅 HYPODERMA SP.ノ食道粘膜下寄生時代ニ於ケル蛆毒素ノ“HYPODERMATO-TOXIN”ノ研究. II. — 出血及皮膚溶解作用ヨリ見タル 牛蠅毒素ノ生物學的意義	188
	小野定雄 [昭和七年]	
17	東部内蒙古奈曼旗一帯に流行せる口蹄疫に就いて 奉天滿鉄獸疫研究所井上辰蔵等三人	198
	昭和七年三月二十日	
18	(復、莊河兩県下ノ獸疫調査)復命書送付ノ件 獸疫研究所長↓地方部農務課長 昭和九年七月十日	219
	別紙：復命書 獸疫研究所技術員武末正義 昭和九年五月	220

19	(奉天省新民県老辺村附近ニ発生セル豚病調査)復命書一部送附ノ件 獣疫研究所長↓ 地方部農務課長 昭和九年八月二十二日	264
	別紙：復命書 獣疫研究所技術員渡部成三等 昭和九年五月八日	265
20	*海城附近ニ於ケル牛疫発生流行状況調査復命書 獣疫研究所傭員氏家八良 昭和九年八月二十五日	288
21	*黒龍江省北黒線方面ニ於ケル炭疽流行状況調査復命書 獣疫研究所技術員奥田金松 昭和九年九月十日	315
22	(安東、撫順ニ於ケル三搾乳場ノ)畜牛結核病検査成績報告 獣疫研究所奥田金松 昭和九年十月二十九日	391
23	(遼陽、鞍山、營口、大石橋、熊岳城、瓦房店)畜牛結核病定期検査施行ニ関スル復命書送付ノ件 獣疫研究所長↓農務課長 昭和九年十一月十七日	401
	別紙：復命書 獣疫研究所技術員豊島武夫 昭和九年十一月十日	402
24	欧里産業調査所預託牛ニ対スル牛肺疫免疫試験報告 獣疫研究所長↓地方部農務課長等 昭和十年八月二十八日	427
	別紙：欧里産調預託牛ニ対スル牛肺疫免疫試験報告 獣疫研究所技術員伊藤定隆 昭和十年八月二十四日	428
25	朝陽綿羊改良場ニ發生セル羊痘ニ就テ調査復命書 獣疫研究所技術員武末正義 昭和十年十一月四日	436

26 *	拉濱線小城、京図線蛟河、奉吉線口前ニ於ケル自警村ノ馬鼻疽補体結合反応検査復命書	
	獸疫研究所林六郎、中川三男 昭和十一年十二月十日……………	441
27 *	富拉爾基酸乳製造所ニ於ケル鼻疽發生調査復命書 獸疫研究所持田勇	
	昭和十一年十二月二十四日……………	451
28 *	奉天省立臥虎屯種畜場ニ羊痘弱毒ヲ接種セル飼育羊調査復命書	
	獸疫研究所松尾英麿 昭和十二年二月二十一日……………	460
29 *	奉天省立臥虎屯種畜場ニ於ケル羊痘弱毒ヲ接種セル飼育羊ノ第二次調査復命書	
	獸疫研究所松尾英麿 昭和十二年四月二十三日……………	467
30 *	開原方面ニ發生シタル羊痘様疾病ニ関スル調査復命書	
	獸疫研究所松尾英麿 昭和十二年九月二十日……………	474
31 *	押木営子分場ニ發生セル牛流産ニ対スル調査復命書 獸疫研究所職員渡部成三	
	昭和十二年十一月十二日……………	478

南滿ニ於ケル稀有ナル鼻疽

爆發例ニ就テ*

奥田金松 豊島武夫 持田勇 佐藤雄三 伊地知季弘

目 次

- I. 緒 言
- II. 發生狀況
- III. 病性鑑定
- IV. 検査方法及其ノ成績
- V. 總 括

I. 緒 言

鼻疽ハ我ガ滿蒙ノ特發病ト云ハレ、滿蒙到ルトコロ馬屬ニ廣ク蔓延シ居ルモノト信ゼラルルモ、關東州内及滿鐵附屬地内ニ於ケル最近5箇年間ノ發生數トシテ擧ゲラルルモノヲ見ルニ、10—44頭、平均1年19頭ヲ數フルニ過ギズシテ、而モ其ノ多クハ所謂潜伏性乃至慢性型ナリ。

昭和5年4月15日、當地駐劄我ガ歩兵第X聯隊長M大佐ノ紹介ニヨリ、L旅長ノ命ヲ帶ビテJ騎砲兵連長來所、TP邊防軍司令長官公署衛隊騎兵隊ノ軍馬數百頭間ニ一種不明ノ傳染病發生シ、既ニ多數斃死シ、今尙病馬數十頭アリ、益々蔓延ノ兆アルニヨリ臨檢ノ上病性鑑定ヲ願ヒタキ旨申出アリタリ、仍テ同氏ト諸般ノ打合セヲ了シ、翌16日長官公署ニL旅長ヲ訪ヒ、同氏案内ノ下ニ現場ニ赴キ、多數ノ重輕症馬ニ就テ精細ナル臨牀的検査ヲ遂ゲ、且發生狀況及流行狀態ヲ調査見聞シ、略其ノ急性鼻疽ナルコトヲ診定シ得タリ、然レドモ念ノ爲メ病馬3頭、健馬1頭ヨリ可檢材料ヲ採收歸所シ、細菌學的並血清學的

* 日本獸醫學會雜誌、第10卷、第2號(昭和6年6月)掲載

検査ヲ行ヒタルニ、其ノ結果余等ハ本症ヲ眞性鼻疽ト確定セリ。

然ルニ重テ鼻疽檢疫竝防遏上ニ關シ當所ニ援助ヲ懇請シ來レルニヨリ、余等ハ同 18—19 兩日ニ互リ、全隊馬 556 頭ニ對シまれいん點眼法ヲ試ミ、陽性反應馬 203 頭竝反應陰性馬中 45 頭、合計 248 頭ヨリ採血シ、諸種ノ血清診斷法(補體結合反應、沈降反應及凝集反應等)ヲ併セ行ヒ、内 198 頭ヲ鼻疽患馬ト推定セリ。又病馬(まれいん點眼及血清反應共ニ陽性ノモノ)2 頭ヲ貰ヒ受ケ、生前及死殺後ニ於ケル精細ナル臨牀的及病理解剖學的竝細菌學的檢索ヲ行ヒタルニ、何レモ定型の鼻疽馬ナルヲ知レリ。

斯ノ如キ鼻疽ノ大流行ハ余等ノ未ダ嘗テ遭遇シタルコトナキトコロニシテ、又成書ノ記載ニヨルモ最近殆ンド其ノ例ヲ聞カザルヲ以テ、以下此ノ稀有ナル爆發例ニ就テ、余等ノ觀察シタル流行狀況竝余等ノ實施シタル檢疫成績ヲ報告シ、讀者ノ參考ニ資セント欲ス。

II. 發生狀況

元來本騎兵隊ハ最近新ニ編成セラレタルモノニシテ、4 箇中隊(内 3 箇中隊ハ騎兵隊、他ノ 1 箇中隊ハ騎砲兵隊ニシテ、各中隊毎ニ 180 餘頭ノ馬匹ヲ有ス)ヨリ成リ、兵舎及厩舎ハ當時東陵附近ノ地ニ新築中ナリト聞ケリ。從テ該軍馬ハ昨 4 年 12 月中主トシテ洮南地方及熱河方面ヨリ新ニ購入シタルモノニシテ、目下調教中ニ屬シ、厩舎ノ竣工ト共ニ夫レニ收容スル豫定ナリシト云フ。

本病ノ發生狀況ヲ聞クニ、購入當時ノ馬匹總數 778 頭ナリシガ、越エテ 5 年 2 月頃ヨリ食慾減退沈鬱漸次瘦削シ、大約 2 週間ニシテ斃死スルモノ續出シ、以テ今日ニ及ベリト。而シテ余等ノ臨檢當時(4 月 16 日)マデニ既ニ斃死セルモノ 106 頭、當日現患馬 105 頭ヲ算シ、尙病斃馬日々續出ノ現況ニシテ、該病馬中重症ノモノ 60 餘頭ハ之ヲ奉天城内 3 箇所ノ牛馬宿ニ隔離飼養シ、又輕症馬ハ厩舎裏或ハ兵舎内ノ空地ニ假繋留場ヲ設ケテ繋留シ、經過觀察中ナリシガ、健康馬ト目セラレルモノモ一般ニ營養極メテ不良ナリキ。

病毒ノ侵入經路ニ就テハ素ヨリ確實ナルコト不明ナルモ、前後ノ實況ヨリ察スルニ、恐ラク當時ノ購入馬中ニ鼻疽馬又ハ其ノ潜伏期中ノモノヲ混ジ居リ、飼養管理法ノ急變及營養不良ニ加フルニ密集及共同飼槽等ノ關係上感染ヲ逞フシ、遂ニ此ノ慘狀ヲ演ズルニ至レルモノト推測セラル。

今參考ノ爲メ發生當時余等ノ見聞セル厩舎竝飼養管理ノ實況ヲ略記スベシ。

第 A 及 第 B 連

本衛隊ハ奉天郊外約 1 里ノ PT ニ在リ、W 隊長ノ指揮監督ノ下ニ C 連長及 P 獸醫正等馬事ヲ司リ、余等ノ檢疫ニ際シテモ大ニ與ルトコロアリタリ。

PT 厩舎ノ確實ナル棟數ハ不明ナルモ、余等ノ見聞セル範圍ニテハ約 50 頭ヲ收容シ得ルモノ 7 棟アリ、何レモ粗造ニシテ設備ノ完全セルモノナシ。十字形ニ通路ヲ設ケ、丸太ヲ以テ 4 房ニ區劃シ、各房ニ多數ノ軍馬ヲ繫留ス。中央ノ縱走及橫走兩通路ヲ區劃セル橫木ニ繩ヲ以テ繫ギ、僅ニ其ノ體位ヲ保タシム。從テ馬ト馬トハ常ニ相接觸シ、時トシテハ蹴蹴咬爭ヲ免レズ。且通路ヲ隔テテ前側ノ馬匹ト對立ス營庭ニハ共用ノ繫柵及飼槽アリ、其ノ他ニ井戸及支那式保定棒ヲ見ル。特ニ鼻疽感染上危險ト認メタルハ井戸脇ノ水槽ナリ。共用ナルヲ以テ一度患馬鼻漏ノ混入ヲ見レバ、鼻漏中ノ病原菌ガ稀釋乳劑トナリテ他ノ健康馬ニ傳播スルハ必然ノ結果ト云ハザルベカラズ。

而シテ余等ノ檢疫ニ際シテハ、252 頭ノ軍馬ヲ營庭ニ於ケル木柵ニ繫留シ、甲舎 91 頭、乙舎 29 頭、丙舎 69 頭、丁舎 17 頭、戊舎 46 頭ノ 5 群ニ區分セリ。

第 C 連

K 少佐連長タリ。厩舎ハ長サ約 100m、幅約 10m、高サ約 8m ニシテ更ニ屋上ニ硝子窓ノ採光及通風裝置ヲ施シ、全部木造ナリ。出入口ハ中央及左右ニ在リ、敝戸ノ如キモノナク自由ニ出入シ得。

厩舎内ハ丸太柱ニテ支ヘ、天井ナク、且隔壁ヲ缺クニヨリ極メテ廣濶ニシテ、從テ採光及通風ノ便モ可ナリ。軍馬ハ騾馬及少數ノ牝馬ニシテ約 20—30 頭ヲ 1 群トナシ、對立式ニ繫留ス。飼付ケハ舍外ニ於テ同一飼槽ニテ行ハレ、1 群毎ニ牽キ出シテ給與セラレ、水與モ亦同一水槽ナリ。

舍内ニ於ケル馬糞ノ處置ハ極メテ緩漫ニシテ、馬體ノ後部壁際ニ蓄積シ、其ノ高マルニ及ビテ始メテ他ニ運搬シ、肥料トシテ民間其ノ他ニ販賣ス。統帶部ヨリノ保管馬 24 頭ハ厩舎ノ 1 隅ニ 1 群トシテ管理セラル。本馬ハ何レモ種牡馬ナレバ飼養ニ特ニ注意ヲ拂ヒ、飼槽ハ繫留舍内ニ在リテ他ノ軍馬ト異ニス。然レドモ汚物處理ハ依然トシテ同一扱ニシテ高ク壁側

ニ蓄積セラル。

聞クトコロニヨレバ本隊ニハ病馬治療ノ設備ナク、僅ニ少許ノ消毒薬アリテ外傷ニ便スルノミ。サレバ重症ト認ムルヤ城内ノ隔離場ニ送りテ治療ヲ乞フト聞ケリ。

收容馬 116 頭、内隊馬 92 頭及保管馬 24 頭ナリ。

第D連

所謂騎砲兵中隊ニシテJ少佐之ガ長タリ。兵營及厩舎ハ目下東陵附近ニ新築中ニシテ、馬匹ノ繫留所ナキ爲メ奉天城内4箇所ノ民間牛馬宿ヲ借受ケ、約40—50頭ツツラー一班ト爲シ分宿セシメ、數名ノ兵卒ヲ配シ、飼養管理並調教ニ當ラシメ居レリ。從テ全ク野天繫留ニシテ何等設備ナク、其不秩序及不潔實ニ想像以上ナリ。而シテ之等各牛馬宿ハ2—3町乃至數町ヲ隔テテ散在シ、庭内ノ廣サ及方位等ニ多少ノ差異アルモ、其ノ構造及繫留狀態等略同様ナリ。即チ街路ニ面スル門ヲ入レバ約100坪ノ空庭アリ、周圍ニ土壁ヲ繞ラシ、庭内ニ數列丸太ヲ櫛立シ、之ニ馬體ヲ繫グ。其ノ前面地上約70cm.ノ高サニ木材ノくりぬき共同水槽ヲ設ク。從テ各馬首頸ヲ列ベテ採食シ、互ニ相嘗メ合フノ狀況ナリ。又庭内ニ共同水槽ヲ置キ、採食後數頭宛ヲ茲ニ牽キ行キ、自由ニ水與交代セシム。飼料ハ切藁ヲ主食トシ、之ニ高粱及少量ノ大豆粕ヲ混シ[1頭1日量:切藁10斤(支那斤ニシテ150匁)高粱7斤、大豆粕2斤]、1日3回給與シ居ルト稱スルモ、馬匹ノ營養狀態ヨリ推察スルニ、其ノ給與量タルヤ甚ダ疑ハシキモノアリ。

斯ノ如キ現状ナルニヨリ、動物ハ何レモ瘦削セル上ニ手入不行届ノ爲メ汚垢堆積、體表汚染シ、一見更ニ軍馬ラシキ觀ナシ。從テ各馬ノ配列順序等一定セズ。余等ノ臨檢當時マデハ全ク健病混居ノ有様ニシテ、而モ各班ニ於テ檢案上鼻疽ト診定セラルル屍體ヲ其ノママ放置シ在ルヲ見タルコト一再ナラズ。

要スルニ本連ハ未ダ兵營厩舎ナク、從テ新募集ノ士卒及將校モ亦此ノ牛馬宿ノ一部ニ宿營シ、馬匹飼育ノ傍ラ軍隊教練ヲ受ケツツ在ルノ狀態ニシテ、飼養管理ニ經驗ナキノミナラズ、馬匹衛生上ニ對シ何等ノ觀念ナシ。

馬匹總數173頭、第1班41頭、第2班44頭、第3班46頭、第4班42頭ナリ。

III. 病性鑑定

上記ノ如ク多數ノ病馬ニツキ、其ノ發生狀況及經過ヲ觀察シ、特異ノ鼻漏、鼻中隔粘膜ニ於ケル病變、顎間淋巴腺ノ硬腫、皮膚ノ病竈及急劇ナル瘦削等ヲ認メタルヨリ、臨牀上本流行疾病ヲ略鼻疽ト推定セリ。仍テ重症馬3頭(まれいん點眼反應陽性)及對照トシテ未感染馬ト目セラルルモノ1頭(まれいん點眼反應陰性)ヨリ檢査材料(鼻漏及血液)ヲ採收シ、細菌學的檢査並血清學的試驗ヲ行ヒタリ。

細菌學的検査ノ結果ハ鏡檢上重症ノ3例ハ共ニ鼻漏中ニ特異菌ヲ示シ、此等ハ培養上何レモばらふくしん寒天平板面ニ鼻疽菌特異ノ集落ヲ生ズ。尙動物試験ハもるもっこニ於ケル Strauss 氏反應何レモ陽性ニシテ、之ヨリ純粹ニ鼻疽菌ヲ分離培養シ得タリ。

次ニ血清反應トシテ補體結合及凝集反應ヲ試ミタリ。

補體結合反應ノ成績ハ第1表ニ之ヲ示ス。

第 1 表

血清稀釋度 可檢馬番號	1/5	1/10	1/20	1/40	1/80	1/160	反應成績
第 1 號	卅	卅	++	+	—	—	陽 性
第 2 號	卅	卅	++	+	—	—	陽 性
第 3 號	卅	卅	++	—	—	—	陽 性
未 感 染 馬	—	—	—	—	—	—	陰 性

〔備考〕 表中卅ハ完全溶血防止、++ハ微溶血、+ハ中等度溶血、—ハ完全溶血ヲ示ス。

又凝集反應ノ成績ハ第2表ニ示シタルガ如シ。

第 2 表

血清稀釋度 可檢馬番號	1:200	1:400	1:800	1:1000	1:2000	1:4000	反應成績
第 1 號	卅	卅	卅	++	+	—	陽 性
第 2 號	卅	卅	卅	++	+	—	陽 性
第 3 號	卅	++	+	—	—	—	疑 症
未 感 染 馬	卅	++	—	—	—	—	陰 性

〔備考〕 表中卅ハ完全凝集、++ハ中等度凝集、+ハ輕度凝集、—ハ凝集ノ完全ナル陰性ヲ示ス。

更ニ4月25日鼻疽發生部隊ヨリ寄贈ヲ受ケ、當所ニ牽キ入レ剖檢シタル病馬2頭ニ於ケル各種試験成績及解剖所見ヲ表示スレバ次ノ如シ。

第 3 表

病 馬 番 號	臨牀所見	まれい ん點眼	血 清 反 應		解 剖 所 見	鏡檢 及ビ 培養	動物 試験	診斷
			補體結 合反應	凝集反應				
第9號	鼻漏、顎凹 腺硬腫著明	陽性	陽性	陽 性 (1:4000)	鼻中隔粘膜潰瘍、 肺結節	陽性	陽性	鼻疽
第10號	右後肢皮膚 鼻疽性潰瘍	陽性	陽性	陽 性 (1:2000)	皮膚潰瘍、肺結 節	陽性	陽性	鼻疽

乃チ病馬 5 例(第 1, 2, 3 表)ニ就テ行ヒタル細菌學的竝血清學的検査ノ成績ハ何レモ鼻疽陽性ナルヲ以テ, 臨牀所見及まれいん點眼反應ノ成績ト相俟テ, 余等ハ本流行ヲ鼻疽ト確認スルニ至レリ.

IV. 検査方法及其ノ成績

余等ハ應急検査手段トシテ先ヅ

(1) 同隊殘餘ノ全馬匹ニ對シ, 毎頭健康診斷ヲ行ヒ, 同時ニまれいん點眼ヲ試ミ, 陽性馬ヲ檢出スルコト.

(2) 點眼反應陽性馬ニ就テハ, 採血ノ上更ニ血清學的診斷法ヲ試ムルコトトシ, 翌 18 日午後 3 時ヨリ同 6 時ニ互リ各部隊(第 A 及第 B 連 252 頭, 第 C 連 116 頭, 第 D 連 173 頭, 外教導團其ノ他 15 頭)ニ就キ, 總數 556 頭(但シ此ノ總數ハ臨牀上病馬トシテ既ニ民間牛馬宿等ニ隔離シ在ル 116 頭ヲ含マザルモノトス)ニまれいん 2—3 滴ヲ點眼シ, 翌早朝(點眼後 16—20 時間目)ヨリ反應検査ヲ行ヒタルニ, 次ノ結果ヲ見タリ.

點眼反應陽性馬	203 頭	36.51%
點眼反應陰性馬	353 頭	63.49%
合 計	556 頭	

[備考] 尙詳細ハ下記第 4 表及第 5 表ヲ參照スベシ.

仍テ同日午後ヨリ該點眼反應陽性馬 203 頭(第 A 及第 B 連 82 頭, 第 C 連 53 頭, 第 D 連 63 頭其ノ他 5 頭)及對照トシテ反應陰性馬中 45 頭, 合計 248 頭ニ就キ採血ヲ行ヒ歸所シ, 同 20 日ヨリ 24 日ニ互リ血清診斷殊ニ補體結合反應及凝集反應ヲ實施セリ. 尙他ノ血清反應即チ沈降反應及こんぐるちなちおんニ就テ試験セルモ, 茲ニ之ヲ省略ス.

補體結合反應ノ結果ヲ見ルニ

まれいん點眼反應陽性馬 203 頭ノ成績ハ

陽 性 馬	187 頭	92.11%
陰 性 馬	16 頭	7.89%

まれいん點眼反應陰性馬 45 頭ノ成績ハ

陽 性 馬	6 頭	13.33%
陰 性 馬	39 頭	86.67%